学校番号１７

秋田中央高等学校　中期ビジョン（５か年計画）

１００年の伝統を胸に 躍進を続ける５か年

歴史を　あらた　飾るもの　誓いの汗は　われらの汗は
描くよ　世紀の　躍進を　（校歌　３番より）

Ⅰ　本校が目指す５年後の姿〈具体的な目標〉[令和３年度～令和７年度]

１　学校の現状や課題

○ＳＳＨの利点を生かした教育活動の推進

ＳＳＨ（スーパーサイエンスハイスクール）事業は本校の大きな特色となっており、課題研究及び高大接続の面で著しい成果を挙げている。全教科・科目において、生徒の課題解決能力と科学的リテラシーの育成に取り組んできたことが、生徒の主体的学習態度の維持や高い学習意欲につながっている。さらに、進路実現における効果も着実に表れているというのが現状である。今後、ＳＳＨと進路指導との関わりを一層深めていくためには、成果をいかに評価しどのような形で生徒にフィードバックしていくかが課題である。時代に求められる「課題解決力」「対話力」を学校の教育活動全体を通して育成していく。

２　学校を取り巻く将来の状況の予測

○地域の伝統ある拠点校としての役割

令和２年、本校の前身である土崎町立実科高等女学校が、開校の認可を受けてから１００年の大きな節目を迎えた。今後、令和３年以降中学校卒業予定者数は加速度的に減少していく見込みであり、高校の規模縮小も更に進んでいくことが予想される。

しかしそうした厳しい状況下であっても、これまでの教育活動の成果を更に発展させていくためには、地域における伝統ある拠点校としての役割を果たしていくことがこれまで以上に求められる。

《中学校卒業予定者の予測（R2.4.1現在）》

	R3.3	R4.3	R5.3	R6.3	R7.3	R8.3
秋田市	2,442人	2,513人	2,466人	2,446人	2,445人	2,301人
南秋・男鹿・潟上	531人	577人	518人	555人	466人	479人
合　計	2,973人	3,090人	3,331人	3,001人	2,911人	2,780人

○大学入学共通テストへの取組

社会の変化や教育制度改革に伴い「２１世紀型能力」が求められているが、本校においても「探究活動」を計画的に取り入れた教科横断型授業改善により、「思考力・判断力・表現力」を鍛え、多面的・総合的に考える力の育成を推進していく。

３　スクール・ポリシー

（ⅰ）グラデュエーション・ポリシー（目指す生徒像）

本校は、校訓「自主・友愛・躍進」の下、人格の完成を目指し、自主的に活動し、友愛の心をもって、高い理想を掲げながら躍進しようとする人材の育成に向けた教育活動を実践している。

①豊かな人間性や社会性を育み、逞しく生き抜く資質・能力を身に付けた生徒。
②一人一人が高い目標を掲げて、自ら主体的に考え・判断し・行動できる生徒。
③課題の発見・探究・発信による学力向上と、高い進路目標達成に努める生徒。

（ⅱ）カリキュラム・ポリシー（本校の学び）

探究的な学習活動を中心に捉え、課題を発見・探究・発信できる、文理を問わず現代に必要な科学的リテラシーを身につけた生徒の育成を図っている。

①探究的な学習活動を中心に据えた、課題発見型学習の推進。
②ＩＣＴの計画的な活用による、個別最適化された学習の推進。
③部活動と学習の両立を図る効率的で効果的な生活様式の確立。

（ⅲ）アドミッション・ポリシー（求める生徒像）

（ⅰ）（ⅱ）のことから、次の①～③に当てはまる生徒を求める。

①豊かな人間性と社会性を持ち、２１世紀を逞しく生き抜こうとする生徒。
②しっかりとした基礎学力を有し、一層の学力向上を図ろうとする生徒。
③人物に優れ、自ら学び、自ら考え判断し、行動できる生徒。

Ⅱ　5年間を通しての具体的目標と取組

1　５年間を通しての具体的目標
（ⅰ）ＳＳＨ事業の推進
（ⅱ）ＩＣＴの環境整備と活用
（ⅲ）進路第一志望の実現
（ⅳ）部活動の全国大会での活躍
（ⅴ）地域関係機関との連携及び地域貢献

2　目標を達成するための具体的な方法、取組　［令和３年度～令和７年度］

（ⅰ）ＳＳＨ事業の推進

ＳＳＨ事業に係る様々な教育活動が大きな成果を挙げていることを踏まえ、これまでの取組を評価・検証しながら、文理融合型の探究活動を推進する。
①秋田県立大学の教職員と本校教職員からなる「高大接続委員会」の定期開催
②高大接続教育プログラムの開発・実践
③「躍進」における課題研究や、外部講師による講演・講座の実施
④学校設定科目「躍進英語」を生かした英語プレゼンテーション指導の充実
⑤科学系コンクールへの参加・出展の継続
⑥令和５年度の第３期指定に向けた、企画の立案と研究の推進

（ⅱ）ＩＣＴの環境整備と活用

授業をはじめ校務全般にわたる教育効果の向上を目指し、個別最適化され創造性を育む学びを重視したＩＣＴの計画的活用を推進する。
①ＩＣＴを導入したあらたな「中央型探究授業」の確立と実践
②情報社会への参画に向けた知識や態度の育成、意欲の喚起
③情報端末や通信ネットワークの計画的な更新・整備を進める
④保護者・地域との連携を高めるためのＩＣＴを活用した情報発信

（ⅲ）進路第一志望の実現

約８割の生徒が国公立大学を志望している実態をふまえ、生徒の主体的進路選択を重視し、進学校としての本校の更なる発展につなげたい。また、旧帝大や医学部など難関大（学部）への挑戦者・合格者を増やす指導を推進する。
①全教科・科目における「主体的・対話的で深い学び」を意識した学習活動の継続
②教科の枠を超えた互見授業と地域に開かれた校内研修会の実施
③学校設定科目「躍進」（総合的な探究の時間）の各科目を十分に生かす工夫
④総合型、学校推薦型、一般の各選抜に向けた個に応じた進学体制の推進
⑤更なる大学入試改革での活用等も見据えたポートフォリオの維持・継続

（ⅳ）部活動の全国大会での活躍

高い目標を掲げて努力することで生徒の人間的な成長と学校の活性化を図る。令和元年度は、野球部が甲子園へ、ラグビー部が花園へと出場することができ、今後も運動部・文化部ともに全国で活躍し、自己実現できる生徒の育成を目指したい。
①部活動への加入奨励
②部活動ガイドラインに則った安全管理と複数顧問制によるメンタルケアの徹底
③外部コーチの積極的な活用等、部活動活性化のための効果的な支援の推進
④施設・設備の最大限の活用

（ⅴ）地域関係機関との連携及び地域貢献

キャリア教育の視点に立ち、地域に貢献しようとする意識や態度を育てることで、これからの時代や社会に対して柔軟に対応する「生きる力」を身に付けさせる。
①地域の小中高との「科学」を通したネットワーク構築に関する共同研究の推進
②「土崎地区懇談会」を活用した学校運営・生徒指導に関する情報共有
②各部活動を通した除雪や各種大会、音楽祭等でのボランティア活動の継続

令和３年６月策定
令和５年６月一部改訂